

独立行政法人国立がん研究センター理事会（平成 26 年度第 9 回）議事録

日 時 平成 27 年 1 月 30 日（金）10：00～11：50
場 所 独立行政法人国立がん研究センター 第 1 会議室
出席者 堀田知光理事長 末松誠理事 門田守人理事 南砂理事 中釜斉理事
小野高史監事 長崎武彦監事

議事概要

I. 理事会（平成 26 年度第 8 回）議事録の確認

- ・資料のとおり了承された。
- ・議事録署名人を中釜斉理事と小野高史監事をお願いした。

II. 報告事項

1. 第 8 5 回社会保障審議会医療保険部会について

- ・第 8 5 回社会保障審議会医療保険部会において説明があった「患者申出療養（仮称）の創設」について報告がなされた。

2. 第 5 回医療法に基づく臨床研究中核病院の承認要件に関する検討会について

- ・1 月 2 3 日に行われた第 5 回医療法に基づく臨床研究中核病院の承認要件に関する検討会において議題となった「承認要件に関する取りまとめ（案）」について報告がなされ、中央病院、東病院ともに申請に向けて準備することが報告された。
- ・財政措置について、意見交換がなされた。

3. 臨床研究に係る制度の在り方に関する検討会の報告書について

- ・1 2 月 1 1 日に公表された「臨床研究に係る制度の在り方に関する検討会の報告書」について報告がなされた。

4. 広報実績について

- ・平成 2 6 年 1 2 月から平成 2 7 年 1 月までの広報実績、及び今後の取材申込み状況について報告がなされた。

5. 平成 2 7 年度予算案及び平成 2 6 年度補正予算案について

- ・国立がん研究センター関連の平成 2 7 年度予算案及び平成 2 6 年度補正予算案、並びに厚生労働省健康局の「がん対策関連」及び医政局の「医療分野の研究開発及び

医療関連産業の活性化」に係る平成27年度予算案について報告がなされた。

- ・長期的な資金を確保しないと出来ない研究が多々ある中で、現状の予算制度では研究が途中で止まってしまう可能性がある。研究資金の確保方法についてサポートする仕組みを考える必要があるとの意見が出された。

6. 次期中長期計画目標案について

- ・平成27年度から6年間の中長期目標案について報告がなされた。
- ・今の時代背景をもっと考えるべきではないか。世界を意識した目標を持つべきであり、数値的目標で機械的な評価を行うのは時勢に合っていないとの意見が出された。
- ・これから目標に添った中長期計画を策定し、さらに年度計画を立てることとなるが、年度計画を達成するためのアクションプランも作成すべき。また、これら目標、計画を達成するためには職員すべてが意識して業務を行うことが必要であり、そのためにもアクションプランによるPDCAサイクルを廻すことが必要との意見がだされた。
- ・26年度は赤字決算となる。今後、27年度以降について黒字化することは思い切った対応が必要であり、たいへん厳しい財政状況であることを認識し、収支計画のレベルアップを図るべきとの意見が出された。

7. 月次決算（12月分）について

- ・平成26年11月実績までを踏まえた平成26年度決算見込み、平成26年度12月までの医事統計関係及び医業収益と医業費用の推移等について報告がなされた。
- ・外来初診患者数のカウント方法について質問があり次回報告することとした。

8. その他

- ・外部資金の獲得方法、寄付金の受け入れ等について意見交換がなされた。

IV. 審議事項

- ・特になし